



F機関当時の筆者
(昭.17. 2 於シンガポール)



(上)
INA司令官、モハンシン將軍
(左)ギル中佐 (右)アグナム大尉
(昭.17. 3. シンガポール)

(左) I. I. L書記長ブリタムシン氏
アグナム大尉(右)山口中尉(右)
(昭.17. 1 イツボーF本部)



イムパール戦場第33師団の進撃正面ケネデピーク峠

インパール作戦参加兵力10万のうち戦死3万、患者2万で、残存兵約5万を数えたものの、やはり病人の集団であった。



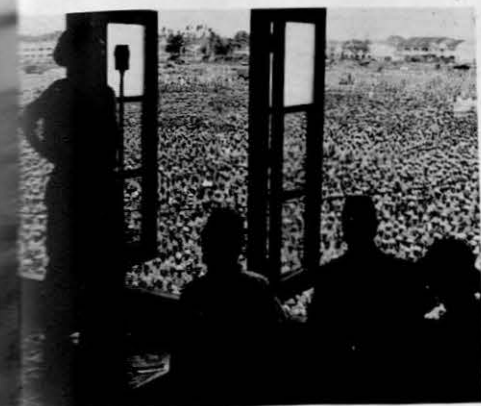
山下、パーシバル会見(昭.17. 2. 15)

日本軍側—山下将軍、杉田参謀(右) 馬奈木少将(右) 藤原機関長(右)
英 国 側—パーシバル将軍、ワイルド少佐(左)



マレーのI.I.L支部に別れの挨拶訪問
バトバハI.I.L支部における記念写真

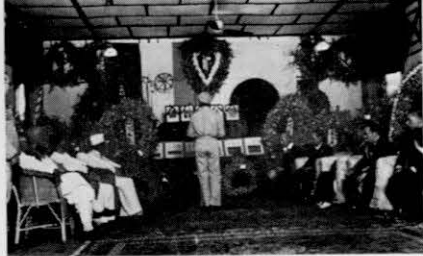
〔座っている人の二人目より、国塚少尉、山口大尉、斎藤大尉、モハンシン
将軍、藤原少佐、バトバハI.I.L支部長とI.N.A将校三人〕



上)印度兵俘虜5万接收、モ将軍の獅子吼
シンガポールのファラパークにて
(昭.17. 2. 17.)



(右)イッポーF機関本部
中央アグナム大尉、その左藤原少佐
山口中尉(昭.17. 1)



燒岳遭難 I.I.L 代表の慰霊祭を将軍
(中央)と鈴木参謀長(右)
(昭.17.4 シンガポール)



東京会談出席の I.I.L 代表を
シンガポールのカラン飛行場に出迎える
左より石塚少尉、藤原機関長、メ
ノン代表、ラガバン氏。



ボース閣兵式 キヤニー中佐(右)



I.I.L の総帥引継式
ヤンドラボース氏(中央)に、引継ぐ。
(七五番)ボンスレー INA 司令官

チェロー デリー(デリーへ)
INA の精鋭

ネタージ、ボース初の INA 観閲式
(昭.18.7.4. シンガポール市庁前広場)



序言

大東亜戦争は、日本の悲痛きわまりない敗戦の悲劇に終った。

連合国管理のもとに、日本民族は、しゅん烈なる自己省察と自己改造の苦行を重ね、敗者の責苦に服すること早くも三年に及んだ。そしてわれわれは、いまやポツダム宣言において要請された、正しく明るい、そして自由平和な民主新日本の再建に、よ光を見出し得るまでになった。われわれはこの祖国更生の喜びと共に、東亜の隣邦諸国もまた相次いで光輝ある自由と独立とを完成しつつあるのを見て、東亜のために二重の歓喜を覚える。しかし、この東亜の自由と平和と繁栄の再建途上に暗い雲がおおいかぶさってきつつある。相こく、と対立が再び人類の骨肉相はむ煉獄を再現しようとしている。

この大東亜戦争間の大半を、印度およびマレイ、スマトラの独立運動の志士に協力を命ぜられ、私は私の部下たる戦友と共に、私の至誠と精魂と情熱とをこの任務に捧げて来た。そして終戦後デリーにおいて開かれた印度国民軍を裁く軍事法廷の証人として召喚され、昭和二十二年六月、再び祖国に帰国した。

この間、デリーにおいて自由印度仮政府や印度国民軍の盟友に再会し、独立の大念願が実を結びつつある大印度の壯観を目撃した。またインドネシア民族の自由獲得への烈々たる努力を聞き知ることができた。そして、これらの盟友が祖国の解放と独立を完成するためいたしつある偉大なる功績を確認し得て、讃仰おく能わざるものがあつた。

また帰国後、日々のニュースを通じて東亜各民族の独立完成への巨大なる前進を知ることを得、私の感慨と感激は更に深いものがある。

この感激につけても、私達のこの崇高な使命のために、壮挙半ばにして倒れ、今この喜びを分つことのできない巨聖チャンドラ・ボース氏を始め、印度独立連盟（IIL）、印度国民軍（INA）、インドネシアの盟友、ハリマオと多くの部下諸君を追想するとき、哀惜、痛恨誠に胸一杯になつてくる。また私が戦争犯罪の容疑を受け、異境のれいごにつながれている留守中、環境の急変と夫の身の上を心痛するの余り、病に伏し、ついに昭和二十三年六月十三日、この世を去つたそう、この妻を想うとき、悲愁が迫る。

私は祖国解放の陣頭に立たれた世紀の巨聖チャンドラ・ボース氏や、いまは亡き印度、マレイ、スマトラの盟友と私の部下諸君の英霊と、妻の靈に厳かにこの喜びを報告すべき義務を感じる。そしてまた、これらの畏友や、今東南亜の祖国に活躍しつある親友の愛国の至誠を広く関係国民に報告し、祝意にも代えたい。

私はこうした心境にかられて、印度や、マレイやスマトラの同志と私達とが相携えて、友愛と自由とを開拓した創業時代の秘史を綴ることとした。

既に六ヶ年を経過して、私の記憶も薄らいでいるので、思う半分も記すことができないのが残念である。

僅かに私が終戦後、シンガポールに拘留されている間、英軍当局に答えた報告のコピーを経とし、その後たどり得た記憶を緯として記したものである。日時や地名や人名にも記憶の間違ひが多々あることを恐れる。しかし、私のこの生々しい感激の記録がいささか亡友の靈を慰め、同志の功業に謝することを得、また亡妻の魂を慰め得たならば、私は無上の満足とするところである。

更に再建途上の東亜に、世界に、再び低迷せんとしつある新たな暗雲を思うとき、この貧弱なる一冊の記録が、もし当時私達が具現をめざした相こく、対立を越えた大和共栄の理想、東亜の自由と平和と共栄を建設するため、東亜諸民族の協力を促進し、世界の友の和合を築く一つの示きになり得たら、それこそ私の望外の幸いである。（昭和二十三年九月誌す）

「追記」

この手記は、GHQ戦史編纂の業に勤務するかたわら、昭和二十二年九月から執筆を初め、妻

逝去の直前、昭和二十三年五月に脱稿し、臨終の枕頭に捧げたものである。馬房を代用した市ヶ谷台上の復員局宿舎で、衣食住は勿論、原稿用紙もままならぬ不自由な環境の中で綴ったものである。文も、詩も解し得ない武弁一骨の私が、意余って筆伴わぬ焦慮にかられながら誌し続けたものである。文も用語も体裁を成していない代物しろものに恐れをなして、本箱の隅に藏いこんで今日に到ったものである。

たまたま、敬友稲葉正夫氏から原書房企画の「一〇〇冊選書」の一つとして公刊するよう御奨めを受け、御受けすることとした。必要な修字、修文もそこそこに、醜を後世に残す結果に相成ることを恐れながら。さりながら、読者諸賢が序文に述べた筆者の衷情に免じて、御寛容賜らば幸せである。(昭和四十一年六月二十九日誌す)

目次

序言

第一部 F 機関

志士の暗躍……………	一七
三志士の密航……………	一七
秘密結社 I I L の登場……………	二〇
日ごとに波高き太平洋情勢……………	三三

第八課の焦慮	二四
武官室の密談	二五
バンコック潜行	二九
決意	二九
祈願	三六
バンコックへ	四一
密会	四三
田村大佐の命令	四三
ゆらぐ泰国	四六
初の密会	四六
深夜の密会	五四
覚書	六七
武装	七九

飛電……………八一

断	八一
大本営命令	八三
ヒボン首相の失そう	八六
ブ氏への通告	九〇
出陣	九三
機上の美談	九六
覆面を脱いだI-I-L	九九
日本軍の快進撃	九九
翻る自由の旗	一〇二
車中談	一〇四
同志の糾合	一〇五
アロルスターへ	一〇八

国境の祈り……………	一〇八
十字街の盛観……………	一一一
投降勧告……………	一一三
市民の保護……………	一二〇
徹宵の討議……………	一二六
会食……………	一二六
連夜の協議……………	一三三
決起……………	一三八
青天白日旗……………	一三八
ペナンの大会……………	一四一
タイピンへ……………	一四一
接触……………	一四七
モ大尉の決起……………	一五三
スリム戦線……………	一五九

イツポーへ……………	一五九
INA宣伝班の活動……………	一六三
YMAの活動……………	一六八
伝単撒布……………	一七一
カンバルにおける初会見……………	一七二
スリム戦線の崩壊……………	一七九
大本營参謀……………	一八二
マラッカ海峡の彼方に……………	一八六
首都クアラ Lumpur……………	一八八
ランプールへ……………	一八八
INA司令部の開設……………	一九四
サイドアプバカル君……………	二〇〇
IILの活動……………	二〇四
モアルの激戦……………	二〇五
扁舟……………	二〇八

自慢話	二〇〇
將軍(ゼネラル)	二〇六
ビルマへ	二二三
シンガポール	二三八
総攻撃	二三八
ブキパンジャンの十字路	二四三
降伏	二四八
フアラバーク	二五二
大会	二六四
遺恨! 華僑弾圧	二六九
アチエの急	二七三
東京会談	二八一
招電	二八一
岩畔大佐	二八三

四氏の遭難	二六五
山王会談	二九二
機密費返上	二九六
惜別	三〇一
マレイにおける別離	三〇一
アチエのほう起	三〇三
シンガポールにおける惜別	三二五

第二部 その後

まえがき	三五
モハンシン事件	三九

悲劇の因	三二九
激突	三三三
流謫	三三五

祖国、インパール進撃	三四〇
------------	-----

ベルリンのボース氏東亞に	三四〇
巨人の抱擁	三四七
ネタージ、明妙に	三五〇
チェロ、デリー	三五四
無念！ 雄図挫折	三六三

デリー軍事法廷	三六八
---------	-----

召喚	三六八
レッドフォート	三七一
デサイ博士の恩言	三七四
ジャイヒン	三八〇

隷属民族は闘う権利あり	三八二
独立の前夜	三八八

訊問	三九七
----	-----

チャンギー刑務所	三九七
ワイルド大佐	三九九
グロリアアウル、サクセス	四〇七

附記	四一五
----	-----

慰霊の辞	四一六
------	-----